OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪大学低温センターだより No.62 裏表紙
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 1988, 62
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21746
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

＜編　集　後　記＞

やっと春めいてきましたが、酸化物超伝導に関する研究は今が盛りと大変なようで、応用物理学会では 270件を越える研究発表があったそうです。ことの是非は別として、低温を必要とする分野が市民権を得たと考えてもよいようで、低温の関係の仕事をしている私としては喜ばしい限りです。

さて、稔野先生がこの3月で停年退官されました。脆性試験室の運営に手腕を振るってこられたのですが、「低温脆性試験機室について」という題目で巻頭言を頂きました。それ以外にも本号は盛りたくさんで、超伝導の発現機構、フィブリン重合の磁場の影響、表面の電子状態、強磁場の量子効果さらには MOSFET に応力をかける方法などの記事があります。

ところで、フィブリンの重合の話ではありませんが、生物系に与える磁場の影響はどうなっているのでしょうか。今後、このような研究は超伝導を使った強磁場を発生する装置が増えてくるにつれ重要になってくるのではないでしょうか。実際に、○○エレキバンなるものの効果が証明される日も近いかも知れません。はたまた、血のめぐりをよくする装置がでてきたりするかもわかりません。

数年前に「低温の将来展望」なるものを若手が中心にまとめたのですが、近年の酸化物超伝導体の話はでてこず、若手には夢がないといわれました。それに対抗するわけではありませんが、風呂の中で一日の疲れをとりながら、風呂の湯の中で動くマイスナー効果を示す“おもちゃ”を夢みると言うのはどうでしょうか。こんな夢を見ていたのでは、暁を知らない方が増えてしかたないかも知れませんが。　　（西嶋茂宏）

大阪大学低温センターだより　第６２号
昭和６３年４月　発行

編集責任者　　櫛　田　孝　司
発　行　者　　大阪大学低温センター
吹田分室　　大阪府吹田市山田丘２番１号
電話（06）877－5111　内線4105
豊中分室　　大阪府豊中市待兼山町１番１号
電話（06）844－1151　内線2162

印　刷　所　　阪東印刷紙器工業所
大阪市福島区玉川３丁目６番４号
電話（06）443－0936（代表）

目　　次

No. 62

巻　頭　言

低温脆性試験機室について ……稔野　宗次 …… 1

研究ノート

超伝導と反強磁性 ……基礎工学部　北岡　良雄 …… 3

フィブリンを磁場内で重合させると配向する ……医療技術短大　東　照正 …… 7
佐川　節子　河口　直正　大西　俊造

Ge吸着によるSi(111)表面電子構造の変化 ……産業科学研究所　長谷川繁彦 ……11

電子散乱に強磁場の量子効果はどう効くか？
—量子極限サイクロトロン共鳴の線幅を通して— …教　養　部　小堀　裕己 ……16
大山　忠司　大塚　顕三

実験メモ

MOSFET へ一軸性応力をかける方法 ……工　学　部　谷口　研二 ……22
浜口　智尋
阿南高専　正木　和夫

昭和６２年度寒剤供給状況 ……24

表紙写真 ： 走査型電子顕微鏡によるフィブリンファイバー像。磁場に配向している状態が見られる。
（本文７ページ参照）